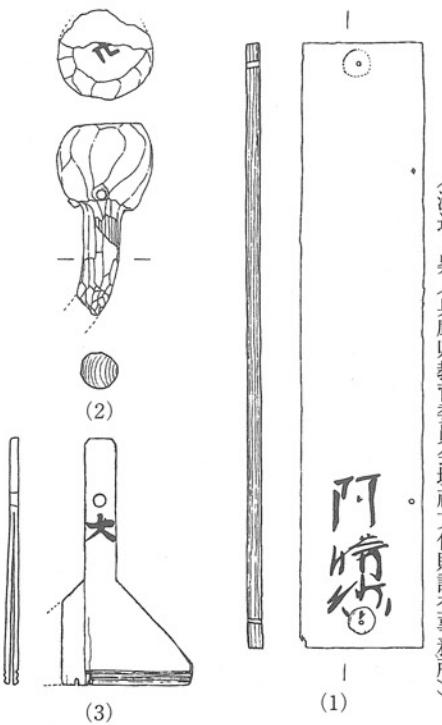


2001年出土の木簡



(3) 「。大」

146×(78)×5 061

(1)は完存に近い板材で上下に留めた孔が認められる。右側部にも穴が二ヵ所存在する。(2)は栓の頭部に卍の記号が墨書きされている。(3)は刷毛本体で、ハケ部は残存していない。柄中央に円孔があり、その下に墨書きで記されている。刷毛は縦方向に割って挟み込むものである。

9 関係文献

兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所『平成二二年度年報』(二〇〇〇年)

明石市教育委員会『平成二二年度文化財年報』(二〇〇一年)  
(渡辺 昇(兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所))

兵庫県城崎郡日高町発行  
「但馬国府と但馬国分寺」

「発掘調査からその謎に迫る」の刊行

但馬国府・国分寺の発掘調査成果をビジュアルにまとめた『但馬国府と但馬国分寺「発掘調査からその謎に迫る」』が、木簡学会但馬特別研究集会にあわせて刊行された。遺構・遺物の写真・解説の他、古地図などの関係資料も総合的に集められている。木簡もカラー写真で多く所収され、墨書き土器の写真も収められている。

A4版 総カラーページ一〇〇二年七月刊行

価格二〇〇円(送料三〇円)

申込先

日高町教育委員会社会教育課

兵庫県城崎郡日高町称布九二〇

TEL ○七九六一四一一一一(代)

FAX ○七九六一四二一一〇一四